

カントリーロード

緑のふるさと協力隊員

かんとうみき
神東美希の奮闘記

4

私は9月1日から3日まで「緑のふるさと協力隊の中間研修」に参加するため上京しました。この研修には全国に散らばる同期隊員54人が集まり、前半の活動を振り返りつつ、後半の活動を盛りあるものにするためのヒントを探ります。出されたテーマは「地域に寄り添った活動を目指して」。グループに分かれ、各自の体験談などを交えて話し合いました。私たちの

グループがたどり着いたヒントは「知る&知ってもらう」です。「知る」というのは派遣された町やそこに住む人々のこと。「知ってもらう」というのは協力隊の存在や活動、そして自分自身のことです。「知る」と「知ってもらう」の両者がそろって初めて、地域に寄り添った活動ができるんじゃないか」ということは、私自身も実感しているところです。

私は活動の一環として8月から「ヒトの魅力@かわねほんちよう」という企画を始めています。これは「川根本町のことをもっと知りたい。町を知るにはまず人を知ることだ」という思いから生まれた企画です。皆さんの協力のおかげで、インタビューは順調に進んでいます。

A Country Road

普段の活動では時間や作業に追われ、人とじっくり話す機会というのは意外と少ないものです。しかし、このインタビューでは一対一で時間をかけて話をするので、その人の性格や人生観、町に対する思いがジワジワと伝わってきます。「もつとその人のことを知りたいな、私のことも知ってもらいたいな」と思いを強くするのは、インタビュー後の帰り道では、いつもホッとした温かい気持ちに包まれています。同じ時間を共有できたことで目に見えない信頼関係が生まれているような気がします。相手も同じ気持ちを持つてもらえたら、なおうれしいです。来年3月まで、老若男女を問わず、できるだけ多くの人に話を聞きたいと思っています。

本町に来て5カ月目にして初めてホームシックになりました。お盆の時期、家族や友達と一緒にお祭りを楽しんでいる人たちの姿を見ていたら、妙に寂しくなってしまうんです。本町での生活に慣れ、知り合いも増えたとはいえ、家族や昔からの友人の輪の中にはなかなか入っていきません。熱気あふれる祭り会場で一人、疎外感・孤独感を味わっていました。かと言ってすねているわけでも、愛媛に帰りたいわけでもありません。「このホームシックも故郷を離れ本町に來たからこそ味わえるんだ」くらいの前向きな気持ちでやり過ごせるようになってきました。協力隊としての活動も後半戦に入ります。ホームシックなんかにかかっている時間をもつたいたくない。小心者で人見知りの私ですが、なるべくモジモジしたり遠慮したりせずに、できることは全部やるくらいの気持ちでのぞむつもりです。以上、後半戦に向けての決意表明でした。「地域に寄り添う緑のふるさと協力隊・神東美希」を温かく、時に厳しい目で見守っていただければ幸いです。



神東美希（かんとうみき） 愛媛県伊予市出身 緑のふるさと協力隊員第18期生
緑のふるさと協力隊は、特定非営利活動法人地球緑化センターが推進する事業。
農山村に興味を持つ若者を、地方自治体に一年間派遣。隊員として、農業や観光施設などで協力活動をする。美希さんは、本町5代目の隊員。

ブログ「徒然かつこin川根本町」執筆中！ <http://katsuko-topparohhey.seesaa.net/>

